

# 2023 年度 事業報告書

自 2023 年 4 月 1 日  
至 2024 年 3 月 31 日

東京都中央区築地 3 丁目 11 番 6 号  
(一財) 日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ)

# I. 会員登録状況 (最終3月31日締め)

## 1. ライセンス会員数

			2018年	2019年	2022年	2023年 計画	2023年 実績	前期比	計画比
会員数	競技会員	実績	14,555	14,019	13,783	<b>13,700</b>	13,504	<b>98.0%</b>	<b>98.6%</b>
	インジョイ会員	実績	2,756	2,398	2,174	<b>2,100</b>	2,277	<b>104.7%</b>	<b>108.4%</b>
	計	実績	17,311	16,417	15,957	<b>15,800</b>	15,786	<b>98.0%</b>	<b>99.8%</b>

## 2. 各種目のライセンス発行枚数

### 1) ロードレース 5,060枚 (前期5,182枚) 前期比 98%

種目	区分		2018年	2019年	2022年	2023年	前期比
ロードレース	国際	実績	879	830	838	<b>815</b>	<b>97%</b>
	国内	実績	3,261	3,238	3,058	<b>2,937</b>	<b>96%</b>
	フルタイム	実績	1,194	1,172	1,238	<b>1,274</b>	<b>103%</b>
	ジュニア	実績	43	64	48	<b>34</b>	<b>71%</b>
	計	実績	5,377	5,304	5,182	<b>5,060</b>	<b>98%</b>

### 2) モトクロス 1,400枚 (前期1,502枚) 前期比 93%

種目	区分		2018年	2019年	2022年	2023年	前期比
モトクロス	国際A級	実績	151	139	153	<b>151</b>	<b>99%</b>
	国際B級	実績	324	291	256	<b>226</b>	<b>88%</b>
	国内A級	実績	237	201	209	<b>201</b>	<b>96%</b>
	国内B級	実績	494	479	535	<b>497</b>	<b>93%</b>
	ジュニア	実績	288	272	265	<b>259</b>	<b>98%</b>
	PC	実績	41	56	84	<b>66</b>	<b>79%</b>
	計	実績	1,535	1,438	1,502	<b>1,400</b>	<b>93%</b>

### 3) トライアル 1,455枚 (前期1,423枚) 前期比 102%

種目	区分		2018年	2019年	2022年	2023年	前期比
トライアル	国際A級	実績	153	145	152	<b>160</b>	<b>105%</b>
	国際B級	実績	389	382	374	<b>361</b>	<b>97%</b>
	国内A級	実績	295	287	253	<b>260</b>	<b>103%</b>
	国内B級	実績	582	614	635	<b>662</b>	<b>104%</b>
	ジュニア	実績	5	9	9	<b>12</b>	<b>133%</b>
	計	実績	1,424	1,437	1,423	<b>1,455</b>	<b>102%</b>

4) スノーモビル 97 枚 (前期 106 枚) 前期比 **92%**

種目	区分		2018 年	2019 年	2022 年	2023 年	前期比
スノーモビル	A 級	実績	58	45	46	<b>37</b>	<b>80%</b>
	B 級	実績	56	51	49	<b>55</b>	<b>112%</b>
	ジュニア	実績	15	14	11	<b>5</b>	<b>45%</b>
	計	実績	129	110	106	<b>97</b>	<b>92%</b>

5) スーパーモト 291 枚 (前期 295 枚) 前期比 **99%**

種目	区分		2018 年	2019 年	2022 年	2023 年	前期比
スーパーモト	A 級	実績	182	196	183	<b>177</b>	<b>97%</b>
	B 級	実績	131	113	112	<b>114</b>	<b>102%</b>
	計	実績	313	309	295	<b>291</b>	<b>99%</b>

6) インデューロ 551 枚 (前期 595 枚) 前期比 **93%**

種目	区分		2018 年	2019 年	2022 年	2023 年	前期比
インデューロ	国際 A 級	実績	60	59	78	<b>80</b>	<b>103%</b>
	国際 B 級	実績	114	100	100	<b>100</b>	<b>100%</b>
	国内 A 級	実績	52	51	68	<b>81</b>	<b>119%</b>
	国内 B 級	実績	300	340	349	<b>290</b>	<b>83%</b>
	計	実績	526	550	595	<b>551</b>	<b>93%</b>

7) ピットクルー 7,101 枚 (前期 7,360 枚) 前期比 **96%**

種目		2018 年	2019 年	2022 年	2023 年	前期比
ピットクルー	実績	7,927	7,553	7,360	<b>7,101</b>	<b>96%</b>

8) 競技役員 4,017 枚 (前期 3,979 枚) 前期比 **101%**

種目		2018 年	2019 年	2022 年	2023 年	前期比
役員・講師	実績	4,233	4,238	3,979	<b>4,017</b>	<b>101%</b>

### 3. 賛助会員

	2018 年	2019 年	2022 年	2023 年	前期比
法人会員	5	60	54	<b>57</b>	105%

### 4. 年間プレス登録者

	ランク	2018 年	2019 年	2022 年	2023 年	前期比
プレス	A	79	81	77	<b>72</b>	94%
	B	25	19	26	<b>25</b>	96%
	合計	104	100	103	<b>97</b>	94%

## II. 今期の重点施策

### 1. カーボンニュートラルに向けた対策

#### 1) 全日本 JSB1000 クラスへのカーボンニュートラル燃料（CNF）の導入

- 世界のモビリティ産業はカーボンニュートラルに向けて動き出しており、2021年よりCNF導入に向けメーカーと議論を開始した。
- 数社ある燃料候補の中からGTAと同様100%非化石由来のレーシング燃料（ハルターマンカーレス社製・ブランド名“ETS”）を選択。4メーカーによるベンチテストの結果、使用に問題ないことを確認し、導入を決定した。
- 複雑な製造過程の燃料であるため、価格が高価でありエンタラント負担を減じなければ導入が困難なことから、4メーカー／タイヤメーカー等ステークホルダーに分担いただき、エンタラントの購入価格を抑えた。
- 第1戦開幕に向けた公式テストに於いて、事前のベンチテストで顕在化しなかったオイル希釈とエンジンの始動性の悪さが現れ、使用課題となった。
- 各社より燃調やオイル交換頻度を情報提供いただき、予定通り第1戦もてぎから使用を開始した。
- 第2戦鈴鹿は、参加70名とスポット参戦が多く、燃料管理の難しさからCNFは適用外とした。
- 第3戦SUGOからは、予定通りCNF適用に戻し、レースを行った。  
課題となっていたオイル希釈は、オイル管理と適時交換により対処できたが、エンタラントのオイル消費が増加。コスト負担が新たな問題となった。
- エンタラントコスト問題に対応する為、4社へCNF負担額を増額いただいた。（200円/ℓ追加）併せ、一部エンタラントが購入燃料の管理が難しい為、残燃料の運搬、廃棄缶処理のサポートを行った。
- 第6戦オートポリスから、CNFの臭いを改善したロットに変更。使用上の新たな問題発生はなかった。
- 第3戦以降徐々に、エンタラントの理解とCNF取扱いの練度が向上、不満の声は小さなものとなった。
- CNFに起因するエンジントラブルは、導入した第1戦以降発生していない。

#### ■ CNF 使用実績

- 使用燃料 17,380 ℓ（計画 39,380 ℓ 計比 44%）

#### 2) 全日本トライアル選手権シリーズに、電動車両が年間を通じて参加

- 2018年ヤマハファクトリーが、国産電動車にてFIM TRIALEクラスに初参戦初優勝という快挙を上げた。
- 電動トライアル車両が全日本選手権への参加を実現する為、FIM規則をベースとした技術規則を制定。
- FIM選手権に参加しているエレクトリックモーション社（EM社）の参加に加え、国内メーカーからヤマハ発動機社の国内外2社・3台の電動車両が、全日本選手権シリーズ参加を実現した。
- ヤマハ発動機社の「TY-E 2.2」を使用する黒山選手は、全日本選手権IAスーパークラス、ランキング3位を獲得。
- EM社の「EPURE RACE」は、成田匠選手がIAクラス第4戦と第5戦に出場し最高位2位を獲得。IBクラス袋井選手が第7戦のみEM車両を使用し12位を獲得。エンジン車両と遜色ない競技性能を発揮した。

成績	第1戦 キョウセイ	第2戦 矢谷溪谷	第3戦 もてぎ	第4戦 湯浅	第5戦 わっさむ	第6戦 灰塚	第7戦 菅生	第8戦 CTJ	総合 順位
ヤマハ	5位	4位	5位	2位	3位	2位	3位	5位	3位
EM-IA				4位	2位				1 2位
EM-IB							1 2位		

#### 3) 全日本モトクロス選手権公式大会へ、電動車両が正式参加

- 電動モトクロスは、2019年と2021年の2回、全日本選手権に於いてデモ走行が行われた。開発車両ではあったが、その高いポテンシャルと可能性を社会に示した。

- ・ トライアルと同様、国内公式大会での参加を実現する為、FIM 規則をベースとした技術規則を制定。
- ・ Team HRC が、10 月に開催された全日本選手権第 8 戦に、電動モトクロス「CR ELECTRIC PROTO」で参加。電動車両の国内公式レース初参加が実現。
- ・ 今シーズン全戦全勝のヤマハファクトリーに及ばず 2 位となったが、初レースで 3 位以下を大きく引き離しエンジン車両の TOP チームと遜色ない走りを見せたのは、モトクロス競技という枠を超え次世代モビリティの未来に大きな可能性を開いた。

## 2. 全日本選手権のシリーズ管理と露出強化

### 1. 全日本選手権シリーズ管理組織

#### 1) 全日本ロードレース選手権シリーズ

シリーズ管理を（一社）MRP-J に業務委託する。

【委託内容】

- ① オフィシャルファンサイトのリニューアルと運営  
大会後のレポートよりも大会前告知を SNS や映像等駆使し集客に寄与することをコンセプトとする。
- ② 会場におけるシリーズスポンサー（ワンメイクタイヤ・ガソリン）の露出管理
- ③ シリーズ露出物のトーン＆マナーの統一

#### 2) 全日本モトクロス選手権シリーズ、全日本トライアル選手権シリーズ

シリーズ管理を『株式会社モトスポーツプロモーション』に業務委託継続

【委託内容】

- ① 全日本 MX/TR の全戦エントリー窓口（WEB エントリー）リスト作成/入金処理/問い合わせ窓口
- ② 全日本 MX/TR のファンサイト製作/運営 SNS 発信含む
- ③ 全日本 MX の E-チケット販売  
普及対策部会施策にて今期名阪大会よりメーカー販売店での取り扱い開始
- ④ 全大会へ事務局員派遣（選手受付補助・機材管理・パドック配置補助、スポンサー露出等）
- ⑤ MFJ 主催大会の事務局業務全般  
開催施設との交渉、競技運営組織構築、備品・宿泊・飲食手配/後援依頼、行政届け出等
- ⑥ 全日本 MX 派遣要員の管理  
【派遣要員】 レースディレクター/レースアドバイザー/テクニカルオフィサー/コースビルダー/解説者

### 3. 全日本選手権露出の拡大

#### 1) 各種目公式サイト

- 全日本ロードレース……従来の「superbike.jp」から MRPJ 運営の「JRR.jp」へリニューアルオープン。リザルト、ランキング、ニュース、選手コメントムービー、選手 SNS、テスト情報などを配信。オリジナル記事掲載本数 63 本、ページビュー 55.5 万。（集計：24 年 1 月～4 月末）
- 全日本モトクロス……MSP にて運営。全戦のレースプレビューとレポートを掲載、大会毎の事前告知動画とコースプレビュー、大会プログラムの web 掲載、選手等インタビューの YouTube・SNS 展開。ページビューは 35 万、ユーザー数は 8.6 万人。（集計：23 年 1～12 月）
- 全日本トライアル……MSP にて運営。全戦のレースプレビューとレポートを掲載。ページビューは 5 万、ユーザー数は 2.0 万人。（集計：23 年 1～12 月）
- 全日本エンデューロ、全日本スーパーモトもファンサイトを運営し各種情報を配信。

#### 2) 動画配信の強化

- **全日本ロードレース/モトクロス（全大会 Youtube ライブ動画配信）GMP 社制作**  
チャンネル名：moto バトル LIVE（登録者数：6.62 万人 ※24 年 5 月末時点）
  - ・ 現地スタジオで年間統一 MC/解説者を付け番組内容を向上

- ・ グリッド紹介/レース直後のインタビューなどでライダー露出を高めた。
- ・ 海外向けの英語版副チャンネルは、ロードレースは継続、モトクロスは中止した。

- **全日本トライアル**

- ・ 全大会 Youtube で部分的に配信を行った 自然山通信制作

- **実績**

		2022年			2023年			前比	
		チャンネル登録者数	視聴総数	大会平均視聴者数	チャンネル登録者数	視聴総数	大会平均視聴者数	登録数	視聴数
全日本ロードレース	8大会	7,311	1,939,134	242,391	4,937	2,077,097	259,637	68%	107%
全日本モトクロス	9大会 (前7大会)	1,558	497,947	71,135	1,234	556,098	61,789	79%	112%
全日本トライアル	8大会		202,483	25,310	3,050	112,778	14,097		56%

### Ⅲ. モーターサイクルスポーツ事業

#### 1. MFJ 公認・承認競技会（講習会含む）の都道府県別申請状況

申請数は公認競技会 318 大会（前比 83%）承認競技会 76 大会（前比 104%）合計 392 大会だった。

地区	公認競技会										承認競技会							合計
	RD	MX	TR	SN	SM	ED	講習会	走行会	公認計	RD	MB	MX	TR	ED	行事	承認計	申請数	
北海道	4	7	7	3		5	4		30		1					1	31	
東北	6	10	10	2	2	1	9	1	41	1	4	1	2			8	49	
関東	12	11	17	1	1	3	13	3	61	7	5	8	4	3	1	28	89	
中部	6	5	13		1	5	22	1	53	7	4		8			19	72	
近畿		7	11		1	1	4		24				1			1	25	
中国	7	9	13			4	6	1	40				2	1		3	43	
四国		6	7				2		15				2			2	17	
九州	7	8	10		1	7	20	1	54	8	4		2			14	68	
<b>2023年</b>	<b>42</b>	<b>63</b>	<b>88</b>	<b>6</b>	<b>6</b>	<b>26</b>	<b>80</b>	<b>7</b>	<b>318</b>	<b>23</b>	<b>18</b>	<b>9</b>	<b>21</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>76</b>	<b>394</b>	
2022年	45	64	88	6	6	28	144	10	391	21	15	5	18	6	2	67	458	
前年比	<b>93%</b>	<b>98%</b>	<b>100%</b>	<b>100%</b>	<b>100%</b>	<b>93%</b>	<b>56%</b>	<b>70%</b>	<b>81%</b>	<b>110%</b>	<b>120%</b>	<b>180%</b>	<b>117%</b>	<b>67%</b>	<b>50%</b>	<b>113%</b>	<b>86%</b>	

※MFJ企画主催は除く、講習会はレベルアップスクールを含む

#### 2. 競技会開催状況

##### 1) ロードレース

##### (1) 世界選手権/特別競技会

(世界選手権はスポーツ庁・観光庁後援事業)

格式	開催日	大会名	2018年	2019年	2020年 2021年	2022年	2023年	前期比
世界選手権	8月4～6日	鈴鹿8時間耐久	101,500	101,000	中止	43,000	55,500	128%
	9月29～10月1日	MotoGP日本グランプリ	96,425	88,597	中止	82,812	76,125	92%
アジア選手権	6月24～25日	日本大会 SUGO	21,000	非開催	非開催	3,800	4,500	118%

##### (2) 全日本選手権

文部科学大臣杯は中須賀選手(JSB1000 ヲノエ)が獲得。全戦スポーツ庁・観光庁後援事業・全戦FIM公認国際競技会

日程		開催日	観客数	総参加	全日本				MFJ加 <sup>o</sup>
					JSB	ST1000	ST600	GP3	JP250
第1戦	もてぎ	4月1～2日	8,600	146	26	29	33	29	29
		2022年	5,500	151	21	35	42	26	27
第2戦	鈴鹿2&4	4月22～23日	25,500	70	70				
		2022年	16,000	60	60				
第3戦	SUGO	6月4日～5日	8,300	147	24	29	35	24	35
		2022年	8,000	141	20	30	37	26	28
第4戦	筑波	6月26日	3,200	109				27	36
		2022年	3,000	100				35	27
第5戦	もてぎ2&4	8月19～20日	14,100	21	21				
		2022年	非開催						
第6戦	AP	9月2～3日	6,800	122	23	22	27	28	22
		2022年	5,700	130	22	27	39	23	19
第7戦	岡山	9月23～24日	5,700	133	22	23	34	27	27
		2022年	5,050	152	17	30	41	24	28
第8戦	MFJGP鈴鹿	10月14～15日	10,200	136	23	25	23	25	40
		2022年	9,400	139	24	24	27	26	38
		2023年(合計)	82,400	884	209	128	152	160	189
		(平均)	10,300	111	30	26	30	27	32
※総参加台数には、併 催承認レースを含む		2022年(合計)	61,150	902	193	146	186	160	167
		(平均)	7,644	113	28	37	47	32	33
		前期比	135%	98%	108%	88%	82%	100%	113%

### (3) 地方選手権 (ナショナル・インター) ・承認ロード競技会 (11月末現在)

	公認 (昇格対象大会)					承認				
	申請数	開催数	総台数	平均	前年比	申請数	開催数	総人数	平均	前年比
十勝	4	4	105	26	93%	4	4	63	16	84%
SUGO	4	4	124	31	79%	6	6	257	43	90%
筑波	4	4	181	45	78%	10	10	1,273	127	95%
もてぎ	4	4	310	78	91%	8	8	860	108	90%
鈴鹿	4	4	788	197	124%	13	13	912	70	91%
岡山	6	6	309	52	113%	10	10	381	38	112%
九州	6	6	132	22	92%	15	15	812	54	104%
<b>2023</b>	<b>32</b>	<b>32</b>	<b>2,138</b>	<b>56</b>		<b>66</b>	<b>66</b>	<b>4,558</b>	<b>69</b>	
2022	35	34	2,324	57		69	64	5,150	80	
前年比	91%	94%	92%	98%		96%	103%	96%	86%	

## 2) モトクロス

(1) 全日本選手権 (MFJGP はスポーツ庁・観光庁後援事業) 大同工業のシリーズ冠協賛をいただいた。

シリーズ	開催地	年度	開催月日	観客数	エントリー	全日本			
				計	台数合計	IA1	IA2	IBOPEN	レディース
第1戦	H S R九州 (熊本)	2023年	04/08~04/09	2,006	185	27	51	46	20
		2022年	04/09~04/10	1,823	196	24	47	52	28
第2戦	オフヴレ (埼玉)	2023年	05/13~05/14	3,238	289	26	50	47	24
		2022年	05/14~05/15	4,897	233	28	45	52	30
第3戦	SUGO (菅生)	2023年	06/03~06/04	2,700	207	27	48	47	23
		2022年	07/16~07/17	3,000	236	27	45	51	31
第4戦	弘楽園 (広島)	2023年	06/24~06/25	2,458	211	26	52	56	21
		2022年非開催							
第5戦	新千歳 (北海道大会)	2023年	07/29~07/30	598	161	29	39		
		2022年非開催							
第6戦	名阪 (奈良)	2023年	09/09~09/10	2,050	348	25	54	51	21
		2022年	09/10~09/11	4,600	320	25	47	55	31
第7戦	H S R九州 (熊本)	2023年	10/08~10/08	846	66	23	43		
		2022年	10/08~10/09	1,520	186	25	45	45	20
第8戦	オフヴレ (埼玉)	2023年	10/28~10/29	4,379	241	27	46	47	29
		2022年	10/29~10/30	6,360	236	27	46	53	27
第9戦	MFJGP SUGO	2023年	11/11~11/12	3,200	203	26	46	54	24
		2022年	11/12~11/13	3,900	217	29	42	61	26
※総参加台数には、併 催承認レースを含む		2023年計	2023年9大会	21,475	1,911				
		2022年計	2022年7大会	26,100	1,624				
		前年比		82%	118%				

(2) モトクロス全国大会 (スポーツ庁・観光庁後援事業)

会場	日程	観客数	総参 加	全国選抜			併催	
				NA	NB	JX	K65	CX
SUGO (宮城)	8月5~6日		105	22	14	30	19	10
	2022年(いなべ)	中止	148	22	14	27	29	28



(3) 地方競技会（ライセンス数は **2024 年 3 月末日締め**）

地区	年度	2023 地方選手権モトクロス				
		ライセンス	申請数	開催数	総参加人数	平均人数
北海道	2023 年	170	7	7	421	60
	2022 年	182	7	7	409	58
	前期比	93%	100%	100%	103%	103%
東北	2023 年	101	7	7	288	41
	2022 年	107	7	7	266	38
	前期比	94%	100%	100%	108%	108%
関東	2023 年	384	8	8	649	81
	2022 年	430	8	8	731	91
	前期比	90%	100%	100%	89%	89%
中部	2023 年	226	6	5	281	56
	2022 年	250	6	5	364	73
	前期比	90%	100%	100%	77%	77%
近畿	2023 年	158	7	7	355	51
	2022 年	162	7	7	315	45
	前期比	98%	100%	100%	113%	113%
中国	2023 年	125	8	8	264	33
	2022 年	128	8	6	227	38
	前期比	98%	100%	133%	91%	90%
四国	2023 年	58	6	6	174	29
	2022 年	51	5	5	136	27
	前期比	114%	120%	120%	128%	107%
九州	2023 年	175	6	6	257	43
	2022 年	192	6	6	306	51
	前期比	91%	100%	100%	84%	84%
全体	2023 年	1,400	55	54	2,689	50
	2022 年	1,502	54	51	2754	54
	前期比	93%	102%	106%	98%	92%

※総参加台数には、併催承認レースを含む

※参加数は地方選手権クラスのみ。併催承認クラスを除く

3) トライアル

(1) 世界選手権

（スポーツ庁・観光庁後援事業）※2023 年、動員数算出方法変更

格式	開催日	大会名	2018 年	2019 年	2020 年 2021 年 2022 年	2023 年	19 年 比
世界選手権	5 月 21～22 日	FIM トライアル世界選手権	18,400	15,600	中止	<b>6,100</b>	<b>39%</b>

## (2) 全日本選手権

	地区	開催地	年度	観客数	エントリー	全日本			
				計	台数合計	IAS	IA	IB	レディース
第1戦	中部	キョウセイ	2023年	1,800	135	15	43	69	8
			2022年	900	137	19	31	75	12
第2戦	九州	矢谷溪谷	2023年	800	94	16	31	43	3
			2022年	1,200	90	19	25	40	6
第3戦	関東	もてぎ	2023年	1,800	133	16	40	71	6
			2022年	2,800	139	19	37	74	8
第4戦	近畿	湯浅	2023年	1,200	125	15	36	65	7
			2022年	800	118	18	31	59	8
第5戦	北海道	わっさむ	2023年	700	102	15	32	47	4
			2022年	716	91	18	21	42	6
第6戦	中国	灰塚ダム	2023年	730	134	16	42	69	7
			2022年	1,500	133	17	37	66	11
第7戦	東北	SUGO	2023年	1,200	132	17	40	68	7
			2022年	1,200	113	17	32	56	7
第8戦	近畿	中央公会堂前	2023年	5,000	10	10			
		りんくう公園	2022年	8,000	18	18			
			2023計	13,230	865	120	264	432	42
			平均	1,654	107	15	38	62	6
			2022計	17,116	829	145	214	412	58
			平均	2,140	104	18	31	59	8
			前期比	77%	104%	83%	123%	105%	72%

## (3) トライアルグランドチャンピオン大会

会場	日程	観客数	総参加	全国大会		
				GC	O50	Ladies
真壁 (茨城県)	11月19日	100	115	78	4	6
	2022年中止					

## (4) 地方選手権（ライセンス数は 2024 年 3 月末日締め）

地区	年度	2023 年地方選手権トライアル				
		ライセンス	申請数	開催数	総参加	平均台数
北海道	<b>2023 年</b>	<b>48</b>	<b>6</b>	<b>6</b>	<b>176</b>	<b>29</b>
	2022 年	43	6	6	158	26
	前期比	112%	100%	100%	111%	112%
東北	<b>2023 年</b>	<b>132</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>706</b>	<b>78</b>
	2022 年	125	9	9	637	71
	前期比	106%	100%	100%	111%	110%
関東	<b>2023 年</b>	<b>412</b>	<b>11</b>	<b>11</b>	<b>933</b>	<b>85</b>
	2022 年	391	9	9	902	100
	前期比	105%	122%	122%	103%	85%
中部	<b>2023 年</b>	<b>271</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>903</b>	<b>100</b>
	2022 年	281	9	9	925	103
	前期比	96%	100%	100%	98%	97%
近畿	<b>2023 年</b>	<b>225</b>	<b>8</b>	<b>8</b>	<b>555</b>	<b>69</b>
	2022 年	222	8	8	517	65
	前期比	101%	100%	100%	107%	106%
中国	<b>2023 年</b>	<b>143</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>557</b>	<b>56</b>
	2022 年	145	10	10	578	59
	前期比	99%	100%	100%	96%	95%
四国	<b>2023 年</b>	<b>67</b>	<b>7</b>	<b>7</b>	<b>236</b>	<b>34</b>
	2022 年	63	7	7	210	30
	前期比	106%	100%	100%	112%	113%
九州	<b>2023 年</b>	<b>157</b>	<b>9</b>	<b>7</b>	<b>563</b>	<b>80</b>
	2022 年	153	8	8	556	70
	前期比	103%	113%	88%	101%	113%
全体	<b>2023 年</b>	<b>1,455</b>	<b>69</b>	<b>67</b>	<b>4,629</b>	<b>69</b>
	2022 年	1,423	66	66	4,483	68
	前期比	102%	105%	102%	103%	101%

※総参加台数には、併  
催承認レースを含む

#### 4) スノーモビル

シリーズ	開催地	年度	エントリー	全日本			
			台数合計	SX-Pro	SX-A1	SX-A2	SX-B1
第1戦	ロッテアライ	2023年	50	10	9	2	16
第2戦	真狩村	2023年	41	12	8	1	14
		2019年	50	16	16	18	
第3戦	士別	2023年	54	12	7		18
		2019年	52	14	17	21	
第4戦	四季彩の丘	2023年	61	9	7		20
		2019年	53	16	16	21	
第5戦	岩木青少年	2023年	65	12	9	2	25
		2019年	50	15	17	18	
第6戦	岩木青少年	2023年	66	13	9	2	25
		2019年	52	15	18	19	
		2023年計	337	68	49	7	118
		平均	40	11	8	2	20
※総参加台数には、併 催承認レースを含む		2019年計	257	76	84	0	97
		平均	51	15	17	0	19
		前回比	131%	89%	58%		122%

#### 5) スーパーモト

##### (1) 全日本選手権

シリーズ	開催地	年度	観客数	エントリー	全日本		
			計	台数合計	S1 PRO	S1 OPEN	S2
第1戦	SUGO	2023年	700	75	16	23	11
		2022年	1,500	73	17	17	9
第2戦	H S R九州	2023年	432	67	15	21	11
		2022年	345	55	16	12	13
第3戦	エビス	2023年	250	74	18	20	9
		2022年	300	67	13	19	9
第4戦	茂原ツイン	2023年	600	88	17	25	13
		2022年	600	72	14	20	11
第5戦	名阪	2023年	500	96	18	29	12
		2022年	300	88	15	23	10
第6戦	美浜	2023年	500	87	15	21	14
		2022年	400	85	15	24	13
		2023計	2,982	487	99	139	70
		平均	497	81	17	23	12
※総参加台数には、併 催承認レースを含む		2022計	3,445	270	90	115	65
		平均	574	45	15	19	11
		前期比	87%	180%	110%	121%	108%

## 6) インデューロ

### (1) 全日本選手権

シリーズ	開催地	年度	エントリー	全日本				
			台数合計	インターナショナルA	インターナショナルB	ナショナルA	ナショナルB	ウイメンズ*
第1戦	テージャスランチ	2023年	186	24	24	26	30	2
		2022年	228	29	34	21	43	3
第2戦	SUGO	2023年	268	28	27	30	57	2
		2022年	223	23	28	22	44	4
第3戦	コスモ	2023年	168	19	23	22	29	1
		2022年	149	26	17	16	27	3
第4戦	御所	2023年	0					
		2022年	131	21	17	14	21	2
第5戦	日高町 ルスツ	2023年	366	25	40	21	72	4
		2022年	144	17	22	10	29	2
		2023年計	988	96	114	99	188	9
		平均	247	24	29	25	47	2
		2022年計	495	116	118	83	164	14
		平均	99	23	24	17	33	3
		前期比	200%	83%	97%	119%	115%	64%

※総参加台数には、併催承認レースを含む

## 3. 代表選手派遣事業

### 1) トライアル・デ・ナシオン（国別対抗世界選手権）

開催日 9月8～10日 開催国：フランス 開催場所：Auron

参加クラス インターナショナルトロフィークラス

代表メンバー 選手：小川友幸、氏川政哉、小川毅士

アシスタント：氏川湧雅、磯谷 郁

監督：藤波貴久

成績 優勝

### 2) モトクロス・オブ・ネーションズ（国別対抗世界選手権） 派遣中止

### 3) ISDE(インデューロ国別対抗世界選手権) 派遣中止

## V. 補助金事業

### 1. (公財) JKAオートレース

オフロード競技会場に設置する安全啓蒙表示幕の製作

交付申請額：1,630,000円

交付内定額：1,630,000円

## VI. モーターサイクルスポーツの普及振興

### 1. 普及強化事業

## 1) 親子バイク祭り

- ・ 2023年8月にモビリティリゾートもてぎにてポケバイの体験試乗を開催
- ・ 開催概要  
開催日程 第1回 8月5～8月6日、第2回 8月26～8月27日  
開催場所 モビリティリゾートもてぎ 中央エントランス付近  
主催 千葉北ポケバイコース/MFJ  
協力 モビリティリゾートもてぎ、(株)サインハウス、(株)ブリヂストン  
※同会場の電動バイクアトラクションとの連動でポケバイコースに誘引
- ・ 参加人数 第1回 31名、第2回 35名
- ・ 運営は安全に配慮し、車両1台にインストラクター2名体制実施。
- ・ もてぎカートコースで、模擬レースを実施。ポケバイを知らない来場者にポケバイをPRすることが出来た。模擬レースは、ご協力いただいたポケバイライダーの子供たちにも満足いただく結果となった。

## 2) にっぽん応援ツーリング

- ・ (一社)日本ライダーズフォーラムと協力し、被災地支援並びに疲弊した観光産業応援の社会貢献活動としてツーリングイベントを開催。
- ・ 開催概要  
主催 : (一社)日本ライダーズフォーラム/(一財)日本モーターサイクルスポーツ協会  
公認 : 国際モーターサイクリズム連盟 (FIM)  
開催期間 : 2023年4月29～10月31日  
内容 : 日本本土4極、エリア(北海道・本州・四国・九州)4極、各地域応援スポット、各観光応援スポットに訪問獲得ポイントを設けSNSで登録するゲーム性のあるツーリングイベント。ポイント優秀者は、Moto Awardsで表彰する。  
全日本選手権会場をポイント獲得地に指定し、ツーリングファンを全日本選手権に呼び込むしさくも施策も実施。
- ・ 参加実績 : 総参加人数:656名(前期667名 前比98%)  
男女構成 : 男性590名/91.4%、女性66名/8.8%  
(前期 : 男性598名/90%、女性69名/10%)  
(前差/比 : 男性▲8名/99%、女性▲3名/96%)

## 3) (一社)日本ライダーズフォーラム/風間深志事務所の主催する以下イベントを後援 Sunrise Sunset Touring Rally 2023 (SSTR 2023)

- ・ 「Chasing the Sun」(太陽を追い駆ける)をテーマに掲げ、日の出とともに自身で定めた日本列島の東海岸からスタートし、太陽を追い駆けながら日本列島を横断し、日没までに日本海の石川県千里浜に沈む夕日を見送るといふ、アドベンチャーラリー。
- ・ 優劣をつけるものではなく、それぞれのライダーが自身の旅のテーマに沿い、無事にゴールゲートを通過し、全国が集ったライダー同士で交流を深めることを主な目的とする。
- ・ 開催概要  
開催地 : 石川県・羽咋市  
開催期間 : 5月20～28日
- ・ 参加実績 : 12,070名(申込ベース)  
内訳 : ソロ 11,468名、タンDEM 602名  
男性 10,701名、女性 1,068名  
参加者平均年齢 48.9歳

## ヘソミーティング in 山中湖

- ・ 国連が定めた世界環境デーに合わせて、ライダーが率先してカーボンニュートラルをはじめとする環境保全活動に取り組む意思表示ツーリングイベント。
- ・ 開催概要  
開催地 : 山梨県山中湖  
開催日 : 6月4日
- ・ 参加実績 : 500名

### 4) (一社)モトライダースサポート(理事長 加賀山 就臣氏)の主催する

#### モトライダースフェスタ 2023 in HAKONE を後援

- ・ 箱根エリアのアネスト岩田ターンパイク(占有使用)バイカーズラダイス南箱根、アネスト岩田スカイラウンジ、十国峠レストハウスを会場に、レース車展示、デモ走行、試乗会、等を行うイベントに協賛し、一般ライダーへのモータースポーツへの興味を喚起する。
- ・ 開催概要  
開催日 : 2022年10月22日  
開催場所 : アネスト岩田ターンパイク/アネスト岩田スカイラウンジ(大観峰展望台)  
コンテンツ : レース車両展示、試乗会、ターンパイクレース車デモ走行、トークショー等
- ・ 参加実績 : 三会場合計の動員人数:4,200名(前期3,700名)

## 2. 安全性・競技性向上に関する活動

### 1) ドーピングコントロール

本年はJADA方針の為、実施せず。

### 2) サーキットアドバイザーへの補助

各サーキットのスクール・イベント時安全面の指導を行うサーキットアドバイザー制度促進の為、日当補助を行った。

スポーツランド菅生 5件(前期5件)

筑波サーキット 9件(前期9件)

### 3) インストラクターセミナー開催

2023年度非開催。定年した講師の後任が決まらず、4月以降開催できず。

現状も後任の目途が立たない状況。

	2021年	2022年	2023年
受講者数	17	59	0

### 4) セーフティオフィサー・レースアドバイザーの派遣

全日本選手権の運営均一化、安全向上を目的に全戦をラウンドする役員を派遣した。

#### ●ロードレース

- ・ セーフティオフィサー2名派遣。競技監督とレースディレクションを構成し、コースの状況、運営について協議し執行
- ・ テクニカルアドバイザー1名派遣。

#### ●モトクロス

- ・ シリーズ管理組織を通じてレースディレクター、レースアドバイザー、テクニカルオフィサー、コースビルダー4名派遣

- ・ レースディレクターは競技監督とレースディレクションを構成し運営を指揮し、全戦統一水準での競技会運営と安全対策に尽力した。

## 5) セーフティ委員会活動

- ・ 8月20日に発生した重大事故原因の検証と再発防止策の検討。
- ・ 競技役員に従事するオフィシャルの安全性向上に関し検討。
- ・ 普及しつつあるエマーゼンシータブを研究し、ヘルメットリムーバーに代わるデバイスであるかを確認。猛暑の環境では、リムーバーの使用は参加者の快適性を失わせるため、対策製品を検討。

## 6) 安全装備の研究

- ・ 2024年より、ロードレースエアバッグ式プロテクション義務化年齢を、18歳以下から22歳以下と55歳以上に義務年齢を拡大することを、セーフティ委員会とロードレース委員会が決定。
- ・ セーフティ委員会の決定として、  
「マウスガードは推奨事項であるものの、データが十分に揃わず、義務化を求める声は多くない。」  
このため、今後調査や継続審議は行わない。義務化を強く望まれる場合は、定量的かつ事故事例を明確にした上で、必要に応じて議題に上げることとなった。

## Ⅷ. 国際交流事業

5月17日	FIM トライアル競技監督及びスポーティングスチュワードライセンスセミナー 開催 会場：モビリティリゾートもてぎ	参加人数：8名
5月21～22日	2023 Hertz FIM トライアル世界選手権 第3戦 大成ロテック日本グランプリ 会場：モビリティリゾートもてぎ	
6月21～26日	FIM アジアロードレース選手権 参加台数 102台/邦人 15名	会場：スポーツランド SUGO
8月2～5日	FIM 世界耐久選手権第3戦“コカ・コーラ”鈴鹿8時間耐久ロードレース 会場：鈴鹿サーキット	
9月29～10月1日	FIM MotoGP 日本グランプリ	会場：モビリティリゾートもてぎ
11月11～12日	第61回 MFJ-GP モトクロス大会 D.I.D 全日本モトクロス選手権シリーズ 2023 第9戦（国際格式） 会場：スポーツランド菅生	海外からのスポット参加 タイ人 3名
12月1～2日	FIM 総会&FIM MotoAwards 出席	会場：英国/リバプール
2024年 1月24～25日	FIM Asia 総会&FIM Asia MotoAwards 出席 会場：カタール/ドーハ	
2月16～17日	FIM E-XPLORER 参加台数 9台 18名/ワイルドカード（日本チーム）1チーム 2名含む	会場：大阪万博公園
3月20～21日	FIM 環境セミナー 開催	会場：MFJ 会議室



## IX. スポーツ安全協会のスポーツ安全保険

### 1. スポーツ安全保険の受傷実績

種目	区分	事故通知			
		中学生以下	高校生～64歳	65歳以上	計
ロードレース	国際		16		16
	国内		38		38
	フルツマン		7		7
	計		61		<b>61</b>
モトクロス	国際A級		13		13
	国際B級		8		8
	国内A級	2	5		7
	国内B級	1	7		8
	ジュニア	4			4
	計	7	33		<b>40</b>
トライアル	国際A級		4		4
	国際B級		5		5
	国内A級		2		2
	国内B級		5	1	6
	計		16	1	<b>17</b>
スノーモビル	A級		1		1
	ジュニア	1			1
	計	1	1		<b>2</b>
インデューロ	国際B級		3		3
	国内A級		2		2
	国内B級		3		3
	計		8		<b>8</b>
スーパーモト	A級		5		5
	B級		3		3
	計		8		<b>8</b>
エンジョイ			12		<b>12</b>
<b>2023年度 (2024年3月末)</b>		<b>8</b>	<b>139</b>	<b>1</b>	<b>148</b>
前年比		160%	89.7%	50%	91.4%
2022年度		5	155	2	162
2021年度		6	105	—	111
2020年度		16	84	1	101
2019年度		7	158	1	166
2018年度		19	170	1	190
2017年度		16	194	3	213

※2022年度より保険手続き簡略化・団体印不要となりMFJ経由はせず請求数は把握できず。

## 2. スポーツ安全保険補償対象者の明確化

- ・ スポーツ安全保険協会の委託損害保険会社より、被保険者がプロスポーツ選手である場合、保険金支払い出来ないことが改めて示された。
- ・ スポーツ安全保険協会と委託損害保険会社と協議し、次のとおり決定  
メーカーが“ファクトリー契約選手”と認める選手のみ、“プロ選手”と認定。スポーツ安全保険補償対象外。
- ・ これまで案内には本記載がなく 2024 年より 本補償はアマチュア選手のみを対象とすることを明記する。

## 3. MFJ 指定保険、MFJ 災害補償見舞金の受傷実績

### 1) スポーツ安全保険被保険者以外を対象とする保険契約を継続

MFJ 指定保険：MFJ ライセンス受講講習会や MFJ ライセンス未取得者の走行会の保険

MFJ 災害補償見舞金：競技会に参加するオフィシャルやメディアを対象とする保険

### 2) 受傷実績

MFJ 指定保険：1 件（前期 2 件）、MFJ 災害補償見舞金：3 件（前期 2 件）

## X. 諸会議の開催（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

委員会、部会開催数・・・52 会議

4 月	6 日	モトクロス作業部会	10 月	5 日	技術委員会
	13 日	MSMA-J 会議		26 日	ロードレース委員会作業部会
	26 日	普及対策部会		26 日	インデューロ委員会作業部会
5 月	10 日	殿堂評議会	11 月	30 日	殿堂評議会
	12 日	MSMA-J 会議		31 日	セーフティ委員会
	15 日	技術委員会	12 月	8 日	スーパーモト委員会
	25 日	モトクロス作業部会		9 日	MSMA-J 会議
	26 日	MSMA-J 会議		10 日	ロードレース委員会
6 月	6 日	運営財務委員会		14 日	トライアル委員会
	13 日	技術委員会		17 日	モトクロス委員会
	15 日	理事会	17 日	女性委員会準備会議	
	16 日	中央スポーツ委員会	20 日	技術委員会	
	19 日	競技用装備品部会	21 日	競技用装備品委員会作業部会	
	27 日	評議員委員会	1 月	7 日	運営財務委員会
	28 日	モトクロス委員会作業部会		15 日	理事会
29 日	モトクロス作業部会、インデューロ委員会	20 日		殿堂評議会	
7 月	13 日	モトクロス委員会	2 月	18 日	セーフティ委員会
	19 日	ロードレース委員会		30 日	中央スポーツ委員会
	25 日	中央スポーツ委員会		30 日	モトクロス委員会作業部会
	26 日	スーパーモト委員会		1 日	普及対策部会
8 月	24 日	モトクロス作業部会	3 月	9 日	ロードレース委員会（プロモーション）
	29 日	スノーモビル委員会		25 日	メディカル部会
9 月	8 日	セーフティ委員会		28 日	技術委員会
	19 日	中央スポーツ委員会	5 日	運営財務委員会	
	21 日	モトクロス作業部会	7 日	理事会	
	30 日	殿堂評議会	28 日	評議員委員会	

## XI. その他の事業

### 1. 新規雇用の募集と採用

- ・ 2023年10月よりインボイス制度と電子帳簿保存法が開始され、経理業務が高度化。
- ・ 働き方に於いても、適切な労務管理とワークライフバランスの充実に図る為、労務管理が複雑化。
- ・ スポーツ庁は、組織に於ける金銭やハラスメントなど不正防止の為、ガバナンス強化を求めている。
- ・ スポーツ団体にも、スポーツやイベントの魅力発信のために、プロモーションや営業・広報の充実が必要。  
⇒ これらに対応するには、MFJ 現有人材スキルでは、非常に困難。
- ・ MFJ 職員平均年齢は50歳を越え、今期中に3名の職員が定年を迎え、2名再雇用1名退職。
- ・ 新規採用活動は、MFJ WEB 掲載と人材募集会社（有料/計画外）を活用。
- ・ 2023年10月より、5名採用。スポーツ部門2名、管理部門2名、営業・広報部門1名
- ・ モータースポーツ、プロモーション、システムに特化した外部専門人材3名と年間契約

### 2. インボイス・電帳法対応、就業規則・給与規則等の改定、フレックスタイム制の導入

### 3. 重大事故発生時の弔事対応基準

#### MFJ 声明発出に至る考え方

- ・ MFJ は、モーターサイクルスポーツが社会の一員であり、社会に求められる存在であり続けることを追求する。
- ・ MFJ は、モーターサイクルスポーツを社会に対して説明する責任を負う。

#### MFJ 声明発出基準

- ・ MFJ は、国内外で活躍している又は活躍した選手やチーム、関係者の競技結果や活動計画そして社会的に重大な出来事とMFJが判断したものについて、社会的影響を鑑み声明を発表する。
- ・ MFJ は、MFJ が公認する全日本選手権において、その社会的影響力をMFJが考慮し、選手やチームそして関係者の出来事に関する声明を発表する場合がある。
- ・ 発表に際しては、個人やその家族と協議し了解を得ることを前提とする。

### 4. 地域管理

- ・ MFJ 組織改革に伴い、2021年4月1日より、加盟団体事務局との関係を発展的に解消し地方部会・選手権等を管理する「広域事務局」を新たに立ち上げ2年が経過。
- ・ 地方管理を行う中で管理体制を専門的人材、ならびに種目別に管理・配置することが、より効率的との考えに基づき2023年度より地域別管理体制から種目別管理体制へ移行。
- ・ 広域事務局体制  
外部業務委託： 4名体制  
※外部委託先： 株式会社小谷与商店 小谷徹
- ・ 管理体制  
責任者 藤岡 良一 MFJ 事務局長（7月より）  
広域事務局統括 中原 洋 スポーツ部地域振興管理課

以上

### ■ 2023年度事業報告 附属明細書

2023年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2024年6月

一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会